

平成和さんの藍綬褒章受章を祝し 記念祝賀会を開催

平成30年度春の叙勲で藍綬褒章を受章した白鷹町消防団団長 平成和さんの受章記念祝賀会が7月16日、パレス松風で開かれました。

この日は、町関係者や町消防団幹部をはじめ、町内外各界から約120人が出席。多くの方からお祝いの言葉を受けた平さんは「これからも地域の期待に応

えられる活動をしていきたい」と謝辞を述べました。

平さんは昭和60年に町消防団に入団し、班長、副部長、部長、副分団長、分団長、副団長と歴任され、平成25年に団長に就任。入団以来、33年の長きにわたり消防防災活動の発展に献身的にご尽力されていることから、このたびの受賞となりました。



謝辞を述べる平成和さん（左）と妻・貴子さん（右）

白鷹学講座パート2 「はなちゃんのパパのシネマトーク」を開催

平成30年度の第2回目の白鷹学講座は7月22日、町産業センターで開催されました。

この日は、平成28年度の白鷹学講座での上映を皮切りに県内各地で上映され、好評を博している映画「いただきます」をアンコール上映。さらに上映後には、同映画のプロデューサーである安武信吾さんと娘「はなちゃん」によるシネマ

トークが行われました。

また、上映会前に鮎貝地区コミュニティセンターで行われた安武さんとはなちゃんによるみそ汁づくり教室には、地域の子どもたち16人が参加。自分たちの手でおいしいみそ汁を完成させた子どもたちに対し、安武さんは「一度作り方を覚えたら絶対に作れるようになる。今度は家族にも作ってみてください」と笑顔で呼びかけました。



色鮮やかなポロシャツを身にまとった職員

みんなで染まろう 紅花デー 〜共に創ろう！シラタカ・レッド〜2018

役場では、町のイメージアップを目的に「みんなで染まろう 紅花デー」〜共に創ろう！シラタカ・レッド〜2018」を設定しました。職員が、紅花染めをイメージした紅（あか）色と、紅花畑の花をイメージした黄色のプロモーションウエ

アを着用しています。

紅花デーは、今年の半夏生である7月2日から始まり、毎週水曜日と金曜日、8月いっぱい着用し、「日本の紅（あか）をつくる町」のPR推進を図ります。皆様のご理解をお願いします。



①映画に関する話題やエピソードを話す安武さんとはなちゃん
②はなちゃんにアドバイスももらいながら調理する子どもたち

日本の紅をつくる町推進拠点施設 「山峡紅の里」全面オープン

平成29年度から整備を進めてきた「日本の紅（あか）をつくる町推進拠点施設」が完成し、8月5日に安全祈願祭並びに全面オープン記念式典が行われました。

この日は、地元役員や町関係者、設計・施工業者など約60人が出席。安全祈願に続いてテープカットが行われました。また、同施設の愛称も発表され、公募の中から「山峡紅の里」に決定。さらに、よつばこども園の園児たちが紅花を題材

にした絵本の朗読とシラタカ・レッドダンスを披露し、式典に花を添えました。

施設は床面積約780平方メートル、白鷹産材を使った木造平屋建て。展示室や交流体験ホール、加工体験コーナーなどを備えています。また、同施設は紅花の生産地である十王地区の地域づくり活動の拠点としての機能も兼ねており、紅花関連事業の拡大とともに、地域コミュニティのさらなる活性化が図られます。



①施設の完成を祝うテープカット ②8月中は紅花先染め振袖や本紅などを展示

世界に目を向け、交流の輪を広げる 台湾（宜蘭県）相互交流プロモーション実施

6月16日〜20日にかけて、白鷹町国際交流協会台湾宜蘭県訪問団総勢15人が台湾を訪問しました。

訪問団は、台北市内の視察を行ったほか、山形県が観光、経済、農業分野での交流を推進する覚書を締結

している宜蘭県を表敬訪問し、宜蘭県と町の相互交流を図るためのプロモーション活動及び意見交換を行いました。

町では今後、双方の交流活発化のための施策を進めていきます。



握手を交わす佐藤町長と余聯興（ヨ・レンコウ）秘書長

白鷹の魅力の世界へ 東京外国語大学スタディツアー

7月17日〜24日の期間、東京外国語大学の学生9人が来町し、スタディツアー（就業体験）を行いました。

この企画は、学生たちが地域の魅力や活性化策について学び、広く情報発信していくことを目的としたもの。同大学の卒業生で、町出身の荒川詔四さん（ブリジストン相談役）の提案を基に計画されました。学生たちは、サンファームしらたか、深山工房つち

団子、やまり菓子舗、紅花の館、(株)とみひろで就業体験を行ったほか、町内を巡りながら地域の魅力を発信しました。最終日には、あゆむを会場に報告会が行われ、町の魅力を今後どのように発信したらよいかを提案しました。なお、学生たちが今回のツアーを通してまとめた提言や、海外に向けて発信する多言語の情報は、今後ブログで発信される予定です。



一週間の滞在中で、白鷹町の魅力や課題を発見した学生たち